

## 再評価結果(令和7年度継続箇所)

担当課: 道路局国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

事業名	一般国道506号 小禄道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局				
起終点	自: 沖縄県那覇市鏡水 至: 沖縄県豊見城市名嘉地	延長	5.7km						
事業概要									
<p>「小禄道路」は那覇市鏡水から豊見城市名嘉地に至る延長約5.7kmの高規格幹線道路である。</p> <p>那覇空港自動車道の一部を構成し、沖縄本島のハシゴ道路計画(ネットワーク)において、沖縄自動車道、国道58号、329号とともに南北を走る『3本の柱』として位置付けられており、沖縄本島北部及び中南部と那覇空港間の定時性・速達性を確保するとともに物流・観光の効率化を支援する道路である。</p> <p>また、那覇都市圏の2環状7放射道路の一部を形成し、交通経路の分散化による慢性的な混雑緩和を図る道路である。</p>									
H23年度事業化		H21年度都市計画決定		H25年度用地着手					
H26年度工事着手									
全体事業費	約1,510億円	事業進捗率 (令和6年3月末時点)	約81%	供用済延長	0.0km				
計画交通量	44,200台/日								
費用対効果分析 <small>(参考)</small>	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 362/4,450億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 1,264/5,916億円		基準年		
	1.3(0.8)	5.5%(3.2%)	(事業費: 333/4,213億円 維持管理費: 29/104億円 更新費: /132億円)		(走行時間短縮便益: 1,023/4,973億円 走行経費減少便益: 183/721億円 交通事故減少便益: 57/222億円)		令和6年		
	1.7(1.3) [2%]						(事業全体)	(残事業)	
	2.1(1.8) [1%]						感度分析		
	(残事業)	(残事業)	交通量	B/C=1.2~1.4(±10%)		交通量	B/C=3.1~3.9(±10%)		
3.5(3.6)	13.0%(13.3%)	事業費	B/C=1.3~1.3(±10%)		事業費	B/C=3.2~3.9(±10%)			
(参考)	(参考)	事業期間	B/C=1.3~1.3(±20%)		事業期間	B/C=3.3~3.5(±20%)			
5.2(5.4) [2%]									
6.4(6.6) [1%]									
事業の効果等									
<p>① 円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇空港から北部地域までの所要時間が短縮し、速達性・定時性が向上する。</li> <li>・並行する国道331号の渋滞損失時間の削減による混雑緩和が見込まれる。</li> </ul> <p>② 観光産業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・那覇空港・那覇港から沖縄自動車道へのアクセスが向上し、北部・中部方面や沖縄県全体の観光周遊活性化が期待される。</li> <li>・那覇空港から沖縄本島北部や中部の観光地へのアクセス性が向上され、さらなる観光産業への支援が期待される。</li> </ul> <p>③ 物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北部地域から那覇空港までのアクセス性が向上し、空港貨物の運搬を効率化できることで県内の物流産業の活性化が期待される。</li> </ul> <p>④ 地域環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2排出量の削減が見込まれる。</li> </ul> <p>⑤ 生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NO2排出量の削減が見込まれる。</li> <li>・SPM排出量の削減が見込まれる。</li> </ul>									

関係する地方公共団体等の意見

【沖縄県知事】

- ・一般国道506号小禄道路は、沖縄ブロック新広域道路交通計画において、定住自立圏や重要な拠点、空港・港湾を連絡する「高規格道路」として位置づけられているとともに、2環状7放射道路の一部を形成することから極めて重要な道路と認識しております。
- ・本道路は、沖縄自動車道と一体となって、沖縄本島全域と那覇空港間の定時性、高速性を確保し、観光産業や物流の効率化を支援するとともに、那覇都市圏の交通渋滞の緩和を図ることを目的とする道路であることから、その整備は急務となっております。
- ・以上より、対応方針(原案)のとおり事業継続に同意する。

事業評価監視委員会の意見

- ・対応方針(原案)に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・小禄道路に接続する那覇西道路が平成23年8月に全線4車線、豊見城東道路が平成27年3月に全線4車線、豊見城・糸満道路が平成29年3月に全線4車線で開通。
- ・周辺地域において、人口や観光客の増加等により、交通量の増加が見込まれる。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成23年度に事業化、用地進捗率約99%、事業進捗率約81% (令和6年3月末時点)。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・早期供用に向け事業を推進中。

施設の構造や工法の変更等

- ・アンカーフレームの変更によるコスト縮減。
- ・今後、技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら事業を推進する。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)